

困ったときの最後の一手

東洋鍼灸院 田中俊男

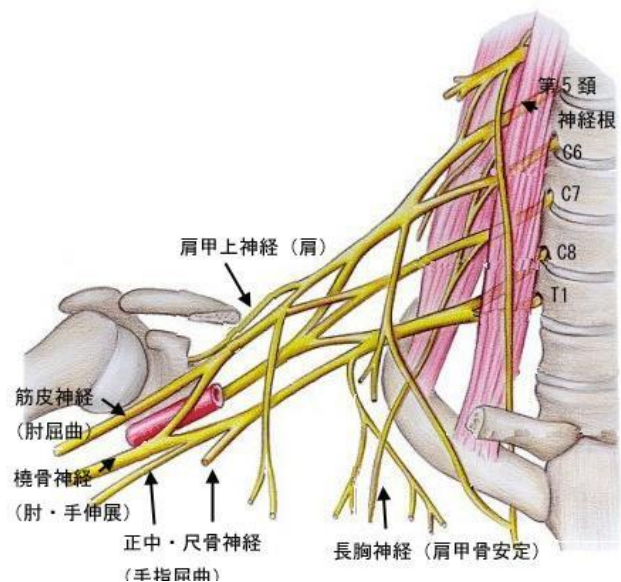
はじめに：腰痛でも寝違いでも1時間の治療の中で良い結果が出せず、気持ちばかり焦ることはある。そんな時今までの経験から、最後の一手として有効と思われる治療法を紹介したい。

病名：1. 腰痛—ぎっくり腰、脊柱管狭窄症、腰椎椎間板ヘルニア
氷—ビニール袋、アイスノンや氷に塩を入れてはダメ
矯正—背中の法が有効
ふくらはぎの強擦—タルクを使う
患部への施灸
大腿四頭筋の強刺激
パルス
さらし固定—骨盤ベルトが駄目な場合
座薬の薦め
歩き続ける指導
按腹—胃の反応
中殿筋の左右差
仙腸関節に鍼
ハムストリングの強刺激
腰部運動鍼
腹部運動鍼
内転筋治療

2. 膝痛—変形性膝関節症、感染症
求心性の患部強擦
大腿四頭筋のキネシオ
ふくらはぎの反応点

3. 寝違い
鎖骨の治療
前腕の治療
腕神経の治療—鍼も
(苦い経験から)
星状神経節の治療
脊柱起立筋の丁寧な治療

4. 肩関節—肩関節周囲炎、五十肩、インピンジメント症候群
棘下筋、小円筋の治療
腋窩神経の治療
鎖骨の治療
腕神経の治療
巨骨の治療
肩甲骨のリフトアップ
前鋸筋治療



考察：考え方としては痛みに対して筋肉の治療では限界があるので、神経をどうやって鎮静させるかがポイントとなる。神経や血管の走行や分岐を研究し、支配神経領域の知識が必要となる。遠隔治療も関係を良く体得し、いざというときには引き出しが多く、次の手が打てるようにしておきたい。